



Title	都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1953
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77383
Type	manuscript
Note	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の新形態、巨大都市。
File Information	N022_01S28.pdf



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK
Special Quality

都市社会学
二十八年夏
特殊讲义案

都市の形成

巨大都市

HIGH CLASS



No.123

式流市

既云

國市行

鑄物の所

市山日市

午毎市

本系印市は世帯と聯結する

たつて市大出店に近世化

巨港市は市に交通の便がある

特殊機能都市あり

として山下の三物

以外にはあり得

るもの

一世帯の都市

工場都市の都市

地産都市は

世帯機能

都市あり

地産あり

第一都市は巨大なものである

一、巨大都市は都市機能として第一

二、巨大都市の地理的構造

三、巨大都市の社会的構造

四、工業都市は特殊機能都市として第一

五、住宅都市又は通勤都市と田園都市

六、通勤都市は都市機能として第一

七、工場都市は特殊機能都市として第一

八、有機的結合として第一

九、都市機能として第一

本系印市は世帯と聯結する

才生也... 德... 可...
燕... 德... 可...
自... 德... 可...
夏... 德... 可...
六... 德... 可...
三... 德... 可...
一... 德... 可...

一、巨大都市は都市後合伴

既に都市圏に於いて地方的規模の
分散の項に於いて述べた通り巨大

市は都市後合伴であって、第一

都市は巨大都市の中心となる

ことも出来たとしても都市の中心

を占めようとする。大都市

は都市の中心を統合して一つの地域の

統合の統一を形成するもので

あるが、これは文化が特に交通に

関する文化が中心の所に発達した

段階に及ぶ、つまり始めて発生した

思はれ、新しい地域の統合

統一である。

中心都市の周辺に若干の都市が
群生し、宛ら恒星の周りにあるの
衛星が従属して片々杯な一つの
統一である。

周辺都市より中心都市に通勤
道が、若くは多いため、中心都市
の通勤圏・通勤圏がそれぞれ
周辺都市に及んで片々杯な多
い。中には周辺都市の住民の
大部分の職場が中心都市に
あるため、周辺都市は中心都市の

思ふに寝室を考へるに於て場合によ

り。 や通学 や通勤

通勤と云ふ現象は其の職場と自

身の世帯とが別々の可成りあること

を意味する。職場は世帯とは異なる

一日の申すに於ては、生活の 居住の 毎

日の一帯か甲の都市一帯か乙の

都市に於ては、通勤の 居住の 意味するものであ

り、かくの如く世帯と職場が別々の

都市に於ては、通勤の 居住の 意味するものに於ては、

都市に於ては、通勤の 居住の 意味するものに於ては、

都市に於ては、通勤の 居住の 意味するものに於ては、

都市に於ては、通勤の 居住の 意味するものに於ては、

あよ。

かくの如き同位^は現代の交通文化
を改^りけるに及んではいめる可能^を
この^は必然^{である}。それ^は
如何に^も都市^が場^をたして^も都市^は
何れ^もその中に^に世帯^と職場^を共に
包^含して^居る。

今日^は何れ^の都市^にも^も存在^{する}
す。職場^は交通^の動^向者^{の中}の
若干^は附近^の都市^が村落^の住
民^{である}。居住^と職場^{とは}必ず
同一^の可^能性^を有^す必要^{なく}

相対的に区々集落であり、可能な
ある。通勤の区々を区々とするその時
が、勤務は支障ない、を限度とする
よ、であるから、その道の区々を区々
子二時区を要する場合は、
二時区を区々とする場合は、
と云へば、マイルに及ぶ、それ
か、通勤圏内にある地域である。
これは当然に大都市の圏を
構成し得る圏である。これを
周辺都市より通勤は、
およ、の区々を区々とする

以て、それは何れの都市に向ふか
かゝる。そこに通勤、販売、ついで
考へて今日では中心都市の周辺
にある人々の往復は概して外向に向
つて居る。中心都市の周辺にある
交通機関の数の多きところは甲の
都市より乙の都市に向ふ通勤者
もそれは乙の都市より丙の都市に
向ふ通勤者も居る。けれどもその
通勤は概して交通機関の存在
の範囲内にある。従つて、その
その範囲外には及ぶ。これは

有り。道筋、線、面、面、面、その他
相互の交流はその面、面、面、
路線に依り、面、面、面、面、
来り。中心都市の周辺に、
出来の如く、ほりまわされ、
ハズ、補完道路の線が及んで、
領域は自ら一つの統一を希し
て居る。この統一が、この面、面、
よかは地、面の上互一と、
の領域の内に大々の都市が中心
都市の周辺に群が、
大都市の外に地が、

三、巨大都市の社会構造

第一都市の社会構造は、従来の都市の社会構造とは異なる。従来は、都市の中心部に、政治的・経済的・文化的機能が集中し、その周囲に住宅地が広がるという構造であった。しかし、現代の都市は、交通手段の発達により、機能が分散し、多核的な構造を形成している。また、都市の拡大に伴って、郊外に住宅地が広がる傾向が強まっている。このように、都市の社会構造は、従来の都市とは異なるものがある。

一、都市の外部に一般に足るもの

都市の外部に、住宅地、商業地、工業地、公共施設、公園、緑地、などがある。これらは、都市の機能を補完し、都市の生活を豊かにする役割を果たしている。

都市と村落の
関係

連金作を形成し都市としての企業
も足らざるのであるから、其金作とし
この統一性も甚く重要なるが然し
可成り都市の連金作に及ぶに似る
の都市を都市たるの本質を失つ
てしまふ、^{片よりの}下は無い。
五、^{片よりの}片よりの事柄を失つて片よ
り邊境的生活者も当然に受け取ら
ず、^{片よりの}片よりの如く、^{片よりの}片よりの生活者の
生活が^{片よりの}片よりの理由で、^{片よりの}片よりの
の概念が不正曲であるを^{片よりの}片よりの
可なりはなへ。

凡そ資本主義の同の資本主義流
は他人の生活に本立の爲の同位
と様同の北人の學問的
同位との二つに分けて考へる事
出来よう既に述べたや二三不
考。又他人の同位として其の
位存の地域の中心都市の
亦二生活地区及び其の生活地区の
に在る。ありては、
必要の物資を踏むが爲に中人者系
に在る。其の多の地也の

機回りの

主に北の人付回付りしは、中心都
 市と周辺都市との多様な形の
 機回りに対し、本支の回付の伝達
 は甚だ多岐の二層の交通機関
 の発達のみなく同一市内の交通
 手段も多岐を呈して居る。けれども
 この回付は大都市と中都市の区
 別一般に比し、より回付が短く、
 且つより多岐の二層の交通機関
 の発達と表へるのは、誤記であ
 り。周辺都市を中心都市と区
 別せしむるべきな理由を述べよう。

同一文化様式

中心都市 周辺都市も社会システム
が同一である同一の文化水準 文化程
度を有するものは可成りなかりしもの
独逸性も足供はしむる程ゆの一と
ありよあてなり。

然しこの共に同する程ゆは尚早
である。父~~も~~は職場として子は
通学校のみに^各中心都市に就労し
妻は鹽物や映画のみに属し中心
都市の才^二又は才^五生女^四は
の甲人に^一出掛けしとしたた、^二体
かくの如く、家族に^一た^二は^三居^四下^五す

周辺都市と中心都市との関係
に比しての把握ありと認められ、
か。もしこの宗族に第一生活地は
ありとすればその宗族は互の周
辺都市互に所屬する。果して
所屬として認められ、第一
生活地は互に認められたらば
互の宗族は互に早や果して
互に互に送脱した遺史的な
生活地は互に互に互に互に
互に互に生活地は互に互に互に
互に互に果してあると認められ

夏落同の如し、社会的な交流が夏
五落同の文化生活水準も様式を
午後十時に到り、又は容易に暮らさ

政^外に周知都市の回には分業的機能
を有している。これは昭和三十九年
に水戸をこね。このころは氏大都市
統一体系を統一化し、最も
重要なる点である。
然し、外周都市に特殊機能がある
ものとしてみよ。特殊性は居住
を主とする。専ら職場を主として
いる。また、仲介を主とする。東京
かの五つの種別以外にはない。
大大阪圏内の圏中帯は居住
を主とする。都市として大企業

民生交通機関の登り延びするに
つれづれ比喩の五型の真中核が完全
に分化するより先一歩よ。
然し大都市は色々の機能に分化し
右都市に成ると云つては五款の
分化を都市字化の基本的とし
て、その他の分化は枝葉の分
化に過ぎぬ。
然し長い下り生活の性質が
あるに似ての都市は容易に粗
劣し不潔な状態をとりその基本的
性格を完全に捨てるより先したる

いふあうが、完全習行位都市
完全な職場都市現在不体
善都市を成立した。の法容易の
了ではあるが、何故か、その
機能の一つの重要は、その
豊中市と川崎市と伊原市の
的は、その中より、その
機能の分化と、その